



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年7月8日

我孫子市小中一貫教育だより

第336号



我孫子市マスコットキャラクター
「手繪沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの共有授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「まいにちとおる みちにはね」

6月27日、我孫子第三小学校の1年生生活科「まいにちとおる みちにはね」で Abi-ふるさとの授業が展開されました。通学路について調べたことを学級内で共有し、地域への愛着や安全への意識を高めていくことが学習のねらいです。

最初に、モニターに前時の話し合いの様子を映し、振り返りを行いました。写真を見ることで、鮮明に思い出し振り返ることができました。

次に、通学路にあったものを共有していきます。植物や建物、標識など様々なものに気づきました。「畑には入らない」「グリーンベルトは歩く人の道」など、規範意識や安全への意識についても先生とのやりとりの中で学ぶことができました。さらに、「通学路にあるみんなの安全を守ってくれるもの」についても考えを深めました。標識だけでなく、道路にも「止まれ」の表示があることや、横断歩道、警察署、安全管理員さんなど、通学路には安全を守る人や工夫が色々あることを理解しました。

最後に「通学路の良さ」について考えを深めました。「植物があることで、きれい、心が温かくなる」「ポストや電車などがあるから便利」「安全を見守ってくれる人への感謝や命を大切にすること」など、様々な考えが生まれました。通学路について調べることで、地域の魅力や安全への意識をより高めることができました。



Abi-ふるさと「布佐の自まん見つけ」～布佐のまちってどんなところ？～

6月27日、布佐南小学校の3年生社会科「布佐の自まん見つけ」の授業が展開されました。この学習は、歴史を学ぶことで自分たちが住むまちを知ることのねらいとしています。

初めに、布佐と利根川でつながる銚子について学びました。銚子は、昔から鮭やイワシなど一年中たくさんの魚が獲れる貴重な場所であることを知りました。江戸時代、銚子沖で獲れた魚は、利根川を利用し帆掛け船で布佐まで運ばれ、布佐からは馬車で5日間を駆け江戸まで運ばれていました。現代と全く違う江戸時代の話に、児童はとても驚いていました。先生からの「なぜ、5日間をかけて江戸まで運んでいたと思いますか？」という質問には「魚が悪くなる前に届けられる距離だから」や「江戸にはたくさんの方が住んでいて、たくさんの魚が食べられていたから」、「江戸の近くでは魚が獲れなかったから」など様々な意見が生まれました。

また、利根川の上流にある群馬県で切った材木が、利根川を利用して布佐の隣にある木下（きおろし）まで船で運ばれていたことも知りました。木下という地名の由来に納得するとともに、布佐周辺が江戸時代の物流にとって、江戸までの水路と陸路を結ぶ重要な場所であったことを理解し、とても誇らしげな様子でした。

歴史を通して布佐のまちが栄えた理由を知ることによって、自分たちが住むまち布佐への興味と関心が高まった授業でした。

